



日本ニュージーランド学会との合同研究会の報告

日時： 2019年3月16日(土)14:00～17:00)

会場： 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

懇親会： 同じ会場(17:50～18:30)

第一報告(14:00～14:10)

佐久間 美羊 (千葉経済短期大学)

「エリック S ベルの軌跡～日本をこよなく愛したあるニュージーランド人～」

エリック・ベル(1890～1964)の日本における軌跡をお話し頂きました。

過酷な抑留を生き延びたニュージーランド人男性の親族がその生きざまを知ろうと来日し、横浜市内にある抑留跡地などを訪れた。

エリックさんは早稲田大学や横浜商業学校などで英語を教える傍ら、関東大震災などの日本での出来事をジャーナリストとして世界に発信しています。

日本文学にも深く興味を持ち、横浜商業学校の 50 周年記念誌には彼が英訳した芥川龍之介の「蜘蛛の糸」が載りました。日本を愛して、戦後も日本に留まり日本の発展に尽くした人の一人でもあります。

今回来日したグラハムベルさんはエリックさんの兄の孫でエリックさんが日本から出した古い手紙を見つけて、親族の誰も詳細を知らないこともあり、大叔父であるエリックさんの生涯を知る上にも今後も、調査を継続されるということです。

歴史的には多くの日本人に知られることもないニュージーランド人の生涯を知ることができ、大変感銘いたしました。

第二報告(15:20～16:50)

大地 佐和子 (染め工房、佐和)

「ニュージーランドをテーマにした振袖制作～イマジンきものプロジェクトのご報告」

イマジンワンワールドきものプロジェクトに関しての発足から、大地さんがニュージーランドをイメージした着物のデザインを任されてから完成までのプロセスを映像ビデオを見せて頂きながら説明頂きました。

最初のデザインの考案からニュージーランド大使館のご意見を踏まえて、途中で今までの考案をあきらめ、最初からデザイン考案を書き直し、最終的に6考案までの約一か月半の期間を要しました。その間は、資料の収集、関係者からのアドバイス、最終的にニュージーランド人の感性を大切にしながら生み出した結果、素晴らしいデザインのきものが完成しました。



ニュージーランドをテーマに制作した振袖：オールブラックスを連想する、黒の地色に、鳥と花の楽園であるニュージーランドの自然を描きました。
(一般社団法人イマジンワンワールド ホームページ [KIMONO PROJECT](#) [「No.096 New Zealand」](#) に掲載中です)

全世界の 196 各国の特徴をデザインする「きものプロデュース」の企画です。
着物の未来のため、世界の平和を日本から発信するために、立ち上げられたプロジェクトです。



一般社団法人イマジンワンワールド ホームページ [「KIMONO PROJECT」](#) より
全世界の国々の着物のファッションショーは絢爛豪華なショーとなることでしょう。

日本ニュージーランド協会

会長 山崎 弘子